

通し番号	5232
------	------

分類番号	R06-C8-32-05
------	--------------

神奈川県沿岸における藻場の分布状況と変遷	
<p>[要約] 県内漁業者からの聞き取りにより、神奈川県沿岸における藻場の分布状況や磯根資源を対象とした漁業の現状について明らかにした。その結果、1990年の調査結果との比較から神奈川県全体で53.7%、相模湾沿岸では78.4%の藻場が減少していることが明らかになった。また、神奈川県沿岸全体では磯焼けの原因であるアイゴの漁獲が増加傾向であることが明らかになった。</p>	
神奈川県水産技術センター・企画研究部	連絡先046-882-2314

[背景・ねらい]

神奈川県沿岸における藻場の分布や磯焼けの全体像と、磯根資源を対象とした磯焼けの漁業への影響の実態を明らかにすることを目的とした。

[成果の内容・特徴]

1 県内沿海漁業協同組合の漁業者計58名から聞き取りを行い藻場面積の推定を行った結果、2022年における被度5%以上の藻場面積は、東京湾側では1,260ha、相模湾側では580ha、県全域の合計は1,840haであった。一方、1990年における藻場面積を算定した結果、東京湾側では1,280ha、相模湾側では2,690ha、県全域の合計で3,970haであった。過去と現在の比較では、東京湾側で1.6%、相模湾側で78.4%、県全域では53.7%の藻場が減少したという推定結果であった(図1)。また、相模湾側に現存する藻場の被度は5~25%の低密度の藻場が大半であり、被度25%以上の藻場は1990年と比較すると89%減少との推定結果であった。藻場の構成種として東京湾側の久里浜以北はアカモクが主体の藻場が多く、久里浜以南から城ヶ島、相模湾沿岸にかけてはカジメやアラメの藻場が主体で東京湾側と相模湾側で藻場の構成種も異なっている傾向であった。

2 漁獲される魚種に関する聞き取りの結果、東京湾側で減少したのはマコガレイ、アワビ類との回答が多く、相模湾側ではアワビ類、サザエ、メバル類との回答が多く挙げられた。一方、増加した魚種は東京湾側ではアイゴ、アワビ類、ハタ類との回答が多く、相模湾側ではブダイ、ハタ類、アイゴとの回答が多く挙げられた(図2、3)。東京湾側ではアワビが増加した海域と減少した海域があり、局所的に状況が異なっていた。

[成果の活用面・留意点]

- 1 県内沿岸全域の藻場面積の推定結果から、藻場の残存している場所・消失した場所の情報が得られ、藻場造成の適地選定や藻場消失要因の環境調査に有用となった。
- 2 藻場の消失とともに増加した魚種、減少した魚種の取りまとめ結果から、今後新たに活用していくべき魚種、増殖に取り組むべき魚種の選定等に有用な情報が得られた。

[具体的データ]

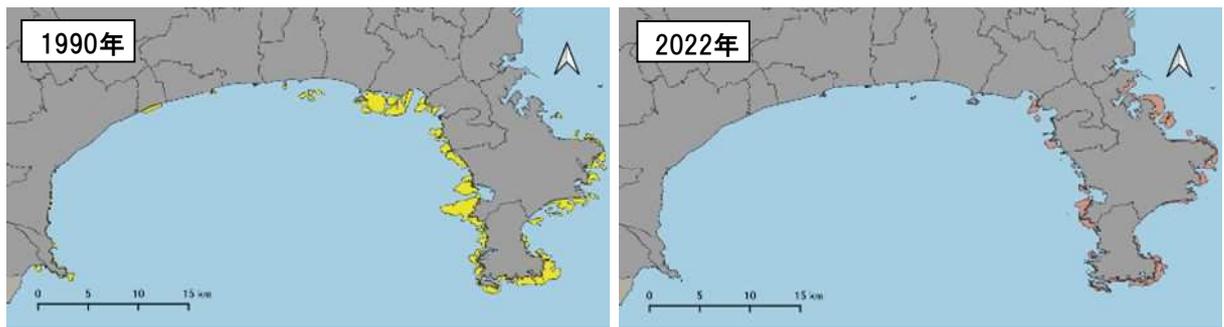


図1：藻場の分布状況の推定結果

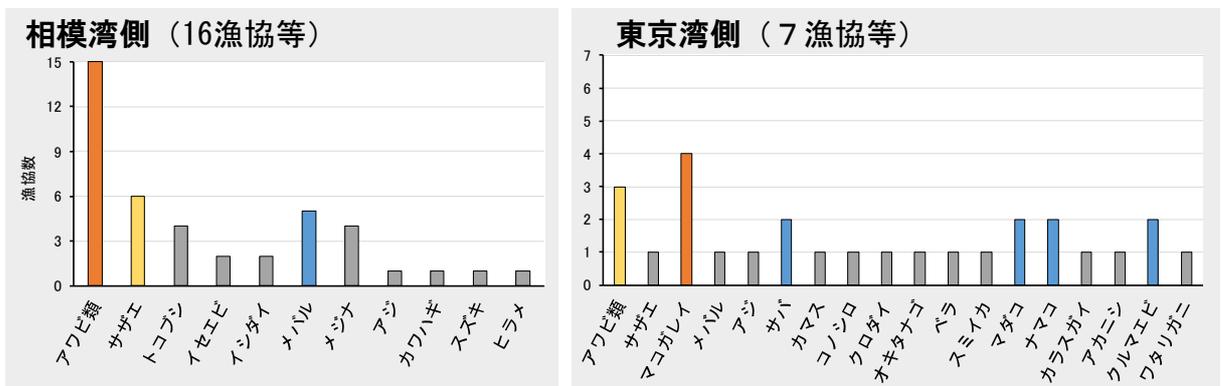


図2：相模湾および東京湾において直近で減少した魚種の聞き取り結果

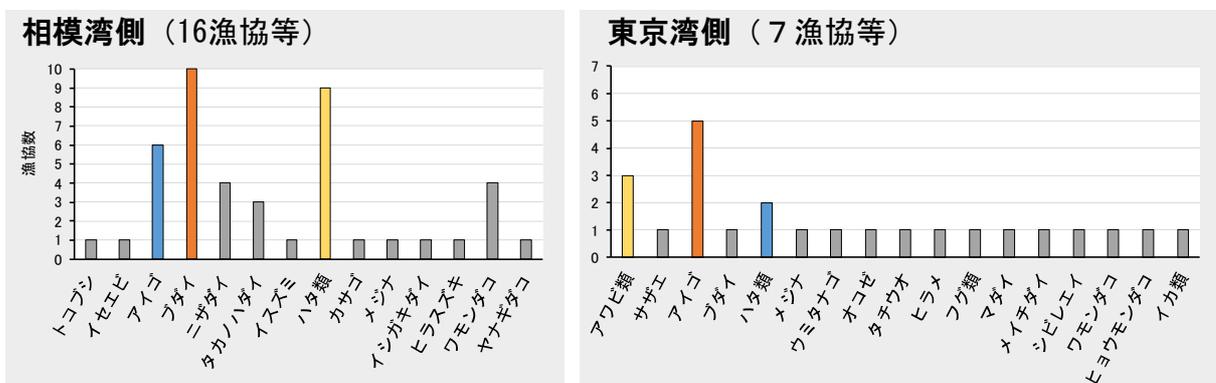


図3：相模湾および東京湾において直近で増加した魚種の聞き取り結果

[資料名] 神水セ研報第13号

[研究課題名] 磯焼け対策事業藻場動態

[研究期間] 2022年～2023年

[研究者担当名] 芳山 拓 (現所属：水産課)

[協力・分担関係]